

令和5年度第1回墨田区地域包括支援センター運営協議会議事要旨

■日 時：令和5年8月4日（金） 午後1時30分から午後3時40分まで

■場 所：オンライン開催（事務局及び一部委員については、墨田区役所12階 123会議室）

■出席者（敬称略）

会長：鏡諭

委員：成玉恵、山室学、岩崎洋子、北總光生、堀田富士子、湯川淳、岩田尚明、前田恵子、濱田康子、小谷庸夫、佐藤和信、村山厚子、福島洋子、関口芳正

事務局その他：福祉保健部副参事（地域包括ケア推進担当）、高齢者福祉課長、介護保険課長、障害者福祉課長、高齢者福祉課係長・主査6名、高齢者支援総合センター9名

■議 事

1 第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画の策定について

事務局より資料2「第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画の策定について」について説明を行った。

2 令和4年度高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室事業報告について

事務局が資料3、4、5を用いて、令和4年度高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室（以下、センター・相談室という。）実績件数、令和4年度包括的支援事業に係る各センター配置基準及び令和4年度の収支について報告を行った（機能強化型含む）。続いて、各センターから、資料5を用いて令和4年度の事業報告を行った。

3 令和4年度墨田区地域ケア会議のまとめについて

事務局より資料6を用いて説明を行った。

4 その他

第2回墨田区地域包括支援センター運営協議会の日程について周知し閉会となった。

■主な発言等

1 第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画の策定について

質疑応答なし。

2 令和4年度高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室事業報告について

（質問）介護予防支援・介護予防ケアマネジメントのプラン件数（委託）について、令和4年度の件数が減少しているが、コロナの影響によるものか。

（回答）センターが直接実施するものは増えており、居宅介護支援事業所に委託する件数が減っている。詳細な要因分析を行っていないが、居宅介護支援事業所内の人材が不足していることや、業務過多の状況により、プランを持つ余裕がなくなっているという現場の声を聴いている。

- (質問) 定期的に行われている各センターとの交流会の中で出された介護予防の分野における課題・解決テーマなどがあれば伺いたい。
- (回答) 介護予防活動において、介護予防サポーターや、担い手となる方にいかに参加してもらえるかという、担い手となる人材の参加が課題となっている。また、介護予防の活動に参加されない方でフレイルが進んでいる方への働きかけについてもコロナ禍を経た現状の課題と考えている。
- (質問) 総合相談支援における継続相談件数について、センターと相談室に分かれているが、それぞれどういう位置づけで分かれているのか伺いたい。
- (回答) まず、新規相談については最初にどちら（センターもしくは相談室）が相談を受けたのかで分けている。継続相談については、相談があった際の相談内容によって、どちらが対応したかで分けている。具体的には、専門的に医療・介護含めたサービスにつなぐ必要がある場合や、権利擁護の観点で支援をする必要がある場合には、新規相談を相談室が受け件数を計上していても、継続して相談があった場合には、センターに対応を移し相談件数もセンターで計上している。
- (意見) 時間が限られており、わかりかねる部分もあるので、文章にまとめて整理していただきたい。
- (質問) むこうじまのいきいき GOGO リストについて、各グループの運営等についてはグループ内の担当者が行っているのか。
- (回答) リーダー・会計・その他係を決め運営をまかせている。センターの継続支援は、介護予防セミナーやメンバーが少なくなった際のサポート、介護予防についてのセミナーや体力測定の実施等である。
- (意見) うめわかの資料にある美味しいものマップが大変興味深い。地域の方が手に取って見られる状況にして配布していることは非常に良いアイデアである。記載内容も具体的であり今後も充実させていきたい。
- (質問) 各センターにおいて、住民の意見を取り入れ、様々な事業を展開している点について高く評価したい。センターにおいて声が上がらないような潜在的な認知症の方に対してのアプローチはどのように行っているか伺いたい。
- (回答) 認知症の相談は年々増えている。相談につながるうえで「相談室のみまもりネットワーク」は非常に大きい機能である。病院から定期受診や服薬管理に関する相談がよせられ、関わりについて連絡が入る。また、警察やマンションの管理人等、継続して関わっている方からもセンター・相談室に連絡をいただく。高齢者の生活支援に関わる機関とネットワークを進めていることが大きい。
- (質問) 緊急で一時預かりをする必要が生じた場合や、徘徊等で夜中に対応が必要な事例があった際はどのようにしているか。
- (回答) 真夜中に訪問するのは難しい。警察で保護されている場合は、翌朝までお願いできるか等のやり取りをし、高齢者福祉課でシェルターの活用を考え、緊急ショートステイ、在宅で介護事業所の関わりができるか等、本人と確認しながら、社会資源の活用をしている。
- (意見) 一時預かりや、重層的支援体制整備の中での検討にあげるなどの安心できる仕組みを区が用意していく必要がある。今後ポイントとなるところに対し資料を集め政策としてブラ

ッシュアップしていく視点が必要と考える。

(回答) 日頃から各センターが取り組んでいる内容・課題を集約し、対策に反映していきたい。認知症の方々の些細な異変に早期に気づくためには、みまもりネットワークを強化していく必要がある。今年度の具体的な取組として、3つの金融機関とそれぞれ協定を結び、みまもりを強化している。現在進行中の金融機関もあり、引き続きみまもりネットワークを強化していきたい。

(意見) 機能強化型の人件費について、予算額より支出額が大きくなっているため、来年度の予算に影響しないように人口や高齢化率等により委託料の調整が必要と考える。また、ぶんかの収支報告について、収入額について、予算時の想定額より決算時の額が増えているにも関わらず、事業実施に係る支出が当初より極めて少なくなっている理由は何か。

(回答) ぶんかの収支報告については、作成した資料に誤りがあったため、正しく修正させていただき改めて提示させていただきたい。

(意見) 複合的な課題を抱えた方の解決として重層的支援体制整備事業が始まっている。全体の件数の計上はあったが、相談内容が具体的にどのように変化しているかがわかるようにしていただきたい。また他の機関が関わるような事例があれば教えていただきたい。事業計画を立てるにあたり、地域診断に基づき、課題に対する取組を期間も含めて立てるようにしていただくとよいと考える。

(回答) 報告資料の内容は今後見えやすいようにしていきたい。重層的支援体制整備事業における、支援会議に挙げた件数は、会議全体が23件である内の7件が高齢者支援総合センターから挙げたものである。他の機関が関わるような事例については、会議の中で報告している。地域診断にあたるものとしては、ケア会議からの課題、ニーズ調査の結果に基づいて9期計画の策定作業を進めている。次回の計画報告の際には、課題とそれに対する計画が、わかるような報告にしていきたい。

3 令和4年度墨田区地域ケア会議のまとめについて 質疑応答なし。

4 その他

(意見) コンビニやスーパーではセルフレジが多くなってきている。手が不自由な人にとって、セルフレジを利用し買い物をするに不便さを感じている。また、荷物の再配達手続きについても、システムの操作が伴い同様である。そういった方に対しては、訪問介護によるヘルパーが手伝っている実態がある。地域というより、もっと大きな課題であるが、このようなことが要因で、外出控えとなる問題も増えるのではないかと考え情報共有する。

(意見) ICT等、新たな技術の導入に対し、対応できる人とそうでない人がいるということが、現在の情報提供である。対応できない人に対して、どのような支援が必要かというのは今後検討していくことである。